

平成 25 年度第 2 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 25 年 8 月 24 日（土）12 時 00 分～13 時 00 分

開催場所：TKP ガーデンシティ品川「カトレア」

出席者：紺野慎一（担当理事）、竹下克志（委員長）、笠井裕一、金森昌彦、金山雅弘、寒竹司、田中信弘、種市洋、橋爪 洋、松永俊二（委員）、福井充、松本守雄、宮本雅史（アドバイザー）

欠席者：清水敬親、細野 昇（委員）、川上 守、高橋和久（アドバイザー）

議題

1. JOACMEQ、JOABPEQ 健常者調査について

JOACMEQ 健常者調査について（担当：田中委員）

論文執筆が完了し、Journal of Orthopaedic Science 誌に投稿中であることが田中委員より報告された。

JOABPEQ 健常者調査について（担当：橋爪委員）

データ入力が完了し、途中解析結果が福井アドバイザーより報告された（別資料あり）。26 施設から計 1469 名が回収され、20 歳代から 80 歳代までの各年代で男女とも 90 名以上のサンプル数が得られた。今回は調査対象である健常者の定義を「整形外科学的疾患で通院治療中または腰椎手術の既往がある者、認知症等で設問の理解ができない者は除く。日頃腰痛があつて整骨院にかかっている場合、一般常識に照らし合わせて年齢相応の日常生活を送っている場合、除外する必要はない」としたため、JOABPEQ と同時に調査された腰痛、臀部痛の有無を問うアンケート結果では、1 割強の人が過去 1 ヶ月間（または現在）に 24 時間以上続く腰痛または臀部痛（あるいは両方）を経験したと回答していた。このような条件の下で行った JOABPEQ 各ドメインの年代別得点の平均値は男女とも高齢になるにつれて低下する傾向がみられた。また心理的障害得点の平均値は各年代とも 60 台（80 歳代女性は 59）であった。補足として橋爪委員より、今回 JOABPEQ に加えて腰痛、臀部痛の有無を問うアンケートが付加されているので、健常者基準値を定めるにあたっては腰痛の有無、臀部痛の有無で結果が影響されるかも検討する予定であることが説明された。

2. プロジェクト研究進行状況について

「腰椎変性すべり症に対する手術治療の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」(担当：寒竹委員)

寒竹委員より、現在 16 施設で計 63 例エントリーされていること、そのうち 3 分の 2 が固定術症例である(除圧術例があれば積極的に登録して欲しい)こと、2015 年の JSSR 学術集会での発表を目標にしているので、(術後フォローアップの期間も考慮し)本年 12 月末でエントリーを終了としたいこと、参加施設の症例割り当ては当初 5 例ずつの予定であったが、可能な限り多くの症例データを集積したいことが報告された。

「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的(脊柱変形)パラメータを検討する多施設横断研究」(担当：種市委員)

種市委員より現在のデータ収集状況が報告された(別資料あり)。調査終了 65 例、患者決定済み 13 例であり、未だ倫理委員会の承認が得られていない施設が 5 施設あること、東大と共同で行っている「胸腰椎・腰椎変性側弯症における脊柱変形パラメータ計測の信頼性」の検討では各パラメータの計測において非常に高い検者間信頼性が得られていること、今後は検者内信頼性について評価する予定であるとの内容であった。

「術者によって頸椎症の手術成績(JOACMEQ)に差があるか」(担当：細野委員)

今回細野委員は欠席であったが、竹下委員長宛てに連絡があり、現在事務局を設置し、専任スタッフを臨時に雇用してデータ入力を開始するところであることが報告された。

3. その他

JSSR2014 主題「患者立脚型アウトカム(JOACMEQ、JOABPEQ)を用いた臨床研究」について

JSSR2014 事務局のメンバーである橋爪委員より同学術集会では当委員会から提出される演題と、主題として応募された中から選ばれた演題を組み合わせてシンポジウムまたはパネルディスカッションを組む予定で準備が進められていることが報告された。当委員会からは「JOACMEQ 健常者調査」、「JOABPEQ 健常者調査」、「変性側弯の多施設横断研究(計測値の信頼性について)」の 3 題については報告することが決定、「術者によ

って頸椎症の手術成績 (JOACMEQ) に差があるか」については今後の解析進行状況を見て最終判断することが確認された。

プロジェクト研究へのインセンティブについて

竹下委員長より、本件については JSSR 理事会で引き続き検討中であることが報告された。

JOABPEQ/JOACMEQ の iPad アプリ (電通サドラー・アンド・ヘネシー社) について (宮本雅史アドバイザー)

宮本アドバイザーと竹下委員長の 2 名で iPad アプリの動作確認を行った結果、特に問題点は見つからなかったことが報告された。

日本整形外科学会 (JOA) 診断評価等基準委員会の廃止について

本件については先に竹下委員長より委員会のメンバーに通達成されたところであるが、その後 JSSR 理事会で当委員会の存続の是非について話し合われた結果、JSSR 診断評価等基準委員会は今後も継続することが決定した旨、(会議の冒頭で) 紺野担当理事より報告された。また、JOA 診断評価等基準委員会の引き継ぎを広報・渉外委員会 (高橋和久委員長) に依頼している旨、竹下委員長より報告された。

4. 次回予定について

次回の当委員会は基礎学会 (10 月 17-18 日、於：幕張メッセ国際会議場) に合わせて開催することとなった (正確な日時についてはメンバーへのアンケートにより決定する)。